

大阪医療センターをご利用くださる先生方へ

Osaka National Hospital

News



独立行政法人
国立病院機構 大阪医療センターニュース

このニュースは、年4回、大阪医療センターの最新情報をお届けいたします。
詳しいお問い合わせは地域医療連携室までお寄せください。

No.53
平成28年4月

目次

地域医療連携室より

- ・ 新任及び退職医師のお知らせ 2
- ・ 講演会のご案内 2

病院のトピックス

- ・ 是恒之宏新院長 院長交代のご挨拶 3
- ・ 三田英治統括診療部長 就任の挨拶 4
- ・ 第53回 おおさか健康セミナー報告 5
- ・ 副看護師長会 職場環境活性化ワーキング 6
- ・ 第37回 法円坂地域医療フォーラム報告 8

シリーズ第3弾「介護保険のあれこれ」

- ・ 介護保険は認定調査書と
意見書が重要です！ 10



独立行政法人
国立病院機構

大阪医療センター

地域医療連携室

平成28年4月発行 53号

〒540-0006 大阪市中央区法円坂2-1-14 TEL.06-6946-3516 ☎0120-694-635 FAX.06-6946-3517

[HP] <http://www.onh.go.jp/> [E-mail] comonh@onh.go.jp

～ 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの理念～

私たち、独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの職員は、

- 1、医療に係わるあらゆる人々の人権を尊重します。
- 2、透明性と質の高い医療を、分け隔て無く情熱をもって提供します。
- 3、医学の発展に貢献するとともに良き医療人の育成に努めます。
- 4、常に向上心をもって職務に専念し、健全な病院運営に寄与します。

～理念に基づいた病院の基本方針～

—— 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの診療・研究・教育方針 ——

1) 政策医療の推進

- ・ 基幹医療施設としての「がん」「心・大血管疾患」「脳卒中」「糖尿病」等、高度総合医療の実施
- ・ HIV/AIDS先端医療の推進（近畿ブロック拠点病院）
- ・ 3次救急医療と災害医療の推進（西日本災害医療センター）
- ・ 専門医療と総合診療の充実
- ・ 医療機関の機能分担の推進と地域医療への貢献（地域医療支援病院）

2) 高度先進医療への貢献

- ・ 技術開発：先進的医療の基盤となる技術の研究開発とその臨床応用の確立
- ・ 臨床研究：病因の解明、診療治療法の開発等の臨床並びにその基礎となる研究の実施
- ・ 臨床試験の推進：治験を含む臨床試験の円滑な実施とその管理・支援

3) レベルの高い医療人を育成

- ・ 卒前教育：医療系教育施設と連携した教育活動と実習生の受入
- ・ 卒後研修：初期臨床研修医及び後期臨床研修医（専修医）等、卒後の医療技術者の育成
- ・ 専門職の育成

4) 情報開示と情報発信

- ・ 透明性を保った情報の開示・発信



新任及び退職医師のお知らせ

新任医師

異動年月	職名	氏名	異動内容
H28.3.31	院長	楠岡 英雄	定年退職
H28.3.31	副院長	多和 昭雄	定年退職
H28.3.31	統括診療部長	和田 晃	退職
H28.3.31	救命救急センター医師	佐尾山裕生	退職
H28.3.31	消化器内科医師	岩崎竜一朗	退職
H28.3.31	麻酔科医師	牧野 裕美	退職
H28.3.31	麻酔科医師	北方 秀憲	退職
H28.3.31	麻酔科医師	松田 真子	退職
H28.3.31	整形外科医師	武中 章太	退職
H28.3.31	泌尿器科医師	木下 竜弥	退職
H28.3.31	皮膚科医師	東 祥子	退職
H28.3.31	外科医師	山本 和義	退職
H28.3.31	耳鼻咽喉科医師	北村 貴裕	退職
H28.3.31	循環器内科医師	三浦 弘之	退職
H28.3.31	循環器内科医師	小出 雅雄	退職
H28.3.31	眼科医師	多田明日美	退職

退職医師

異動年月	職名	氏名	異動内容
H28.4.1	院長	是恒 弘之	昇任
H28.4.1	統括診療部長	三田 英治	昇任
H28.4.1	医療安全管理部長	関本 貢嗣	昇任
H28.4.1	感染制御部長	上平 朝子	昇任
H28.4.1	整形外科医師	古家 雅之	採用
H28.4.1	泌尿器科医師	大島 純平	採用
H28.4.1	泌尿器科医師	片山 欽三	採用
H28.4.1	耳鼻咽喉科医師	森鼻 哲生	採用
H28.4.1	耳鼻咽喉科医師	李 杏菜	採用
H28.4.1	救命救急センター医師	高端 恭輔	採用
H28.4.1	消化器内科医師	長谷川裕子	採用
H28.4.1	外科医師	浜川 卓也	採用
H28.4.1	循環器内科医師	三嶋 剛	採用
H28.4.1	循環器内科医師	篠内 和也	採用
H28.4.1	循環器内科医師	横井 研介	採用
H28.4.1	麻酔科医師	山本 俊介	採用
H28.4.1	放射線診断科医長	東 将浩	採用

講演会のご案内

開催日時	件名	内容	対象者
平成28年4月23日(土)	第54回おおさか健康セミナー	内容：「造血と貧血および感染症について」 担当：感染症内科、血液内科	一般市民
平成28年5月18日(水)	2016年度 第1回オンコロジーセミナー	内容：インシデントから学ぶ がん医療におけるリスクマネジメント	医師及び 医療従事者
平成28年6月11日(土)	第38回法円坂地域医療フォーラム	内容：がん治療とがんの疼痛管理 担当：下部消化器外科、緩和ケアチーム	医師及び 医療従事者
平成28年7月16日(土)	第55回おおさか健康セミナー	内容：未定、担当：眼科	一般市民

開催場所 大阪医療センター 緊急災害医療棟3階講堂

アクセス 地下鉄谷町線・中央線「谷町4丁目」駅⑩号出口すぐ

問合せ 地域医療連携室（電話：06-6946-3516）

「平成28年6月11日開催の第38回法円坂地域医療フォーラムのみ、
シティプラザ大阪で開催」



院長交代のご挨拶

平成28年4月1日より当院院長を拝命しました。私は、昭和54年大阪大学医学部卒業で旧第一内科（現在は循環器内科）出身です。かなり珍しい苗字で、ルーツは大分の宇佐ですが生まれも育ちも大阪です。平成9年に国立大阪病院に循環器内科医として赴任し、循環器医長、平成15年から臨床研究部長、平成20年から臨床研究センター長を勤めておりました。

国立病院機構は平成27年度より非公務員化されましたが、国が提供する医療、すなわち政策医療を担っていることに変わりはありません。当院では、三大疾患である、がん、心臓病、脳卒中をはじめとして、広い領域の疾患を取り扱っており、患者さんに高度で総合的な医療を提供するため、病院すべての能力を結集し職員が昼夜を問わず取り組んでいます。その中には、エイズ、C型肝炎などの感染症や、高度救急救命医療、災害医療も含まれています。

今後の地域包括ケアシステムにおいては、地域における高度急性期・急性期医療を提供すると共に、特別な医療需要に対する在宅医療も提供し、地域との繋がりをますます深めて参りたいと考えています。このミッションを達成するため、医師・医療者向けの「法円坂地域医療フォーラム」や「緩和ケアセミナー」、市民向けの「おおさか健康セミナー」などを定期的で開催しています。また、未来の医療人を育てるために、中学生・高校生向けに「アドベンチャーHospital in 大阪医療センター」を毎年開催しています。

一方、医師をはじめ多くの医療職の育成にも力を注いでおります。医師の臨床研修病院の指定を受け、また数多くの大学医学部、医科大学、薬科大学、看護系大学等の医療職養成校から学生を受け入れ、実習の場を提供しています。さらに、種々の学会から専門医養成のための研修施設としての認定も受けています。

もう1つの特徴として、臨床研究の推進があります。医療の発展のためには臨床に根差した研究を進めることが必要です。当院は臨床研究センターを有し、新薬や新しい医療機器の開発のために欠かすことのできないプロセスである治験に積極的に取り組んでいます。また、多くの国際的な臨床試験にも参加し診療に役立つエビデンスの創設に寄与しています。

当院の喫緊の課題は、病院の更新築です。病院が老朽化しており、これまでも改修を加えてきましたが限界に達しつつあります。本年4月よりようやく遺跡発掘調査に入りました。新病院はこれまで来客駐車場としていた土地に建てる予定ですが、これまでの認識を変えるような重要な文化財が発掘された場合建設の遅れが予想されます。どうか順調に更新築が進むように祈るばかりです。この発掘調査にあたって駐車場を変更しなければならずご迷惑をおかけしておりますが、新病院建設までの間、ご容赦をお願いいたします。

当院の医療をご支援頂いている大阪ならびに近畿一円の多くの先生方に改めて厚く御礼申し上げます。今後も当院の掲げる理念に従い、「正しく、品よく、心をこめて」をモットーに、よりよい医療サービスを提供し、また、医療人の育成や医学の進歩に貢献すべく進んでまいります。

今後とも、引き続きご支援・ご援助のほど宜しくお願い申し上げます。

独立行政法人 国立病院機構

大阪医療センター院長 是恒 之宏



統括診療部長 就任のご挨拶

本年4月から統括診療部長を拝命しました三田でございます。地域医療連携推進部長をしておりました際は、近隣地域の医療機関の皆様にご協力をたまわり、誠にありがとうございました。役職は変わりましたが、病診連携・病病連携を推進する立場にかわりはございませんので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

本年度は特に近隣の医療機関からのご紹介および当院からの逆紹介に関し、今まで以上にフットワークを軽くしたいと思います。専門診療科がはっきりしている患者さんの受け入れはもとより、どの診療科か迷われる患者さんでもできる限り総合診療科へご紹介いただき、専門診療科への割り振りは当院の中で行えるように調整したいと考えています。現在、総合診療部長も兼任している関係で、この部分の強化は私の使命と思っております。

また、地域医療連携の会を通して、お互いの顔が見える信頼関係の構築をさらに深められるよう努めたいと思います。昨年、当院医師が、日頃よくご紹介いただき、お名前だけは存じ上げていた医院の先生と、病診連携の会で初めてお会いする機会があったことをとても有意義に感じておりました。直接お話しする場を大切にしていまいります。

一方で、大阪医療センターは各診療科が専門性の高い診療をこころがけておりますので、各医療機関を訪問し、その専門診療の詳細を直に説明する機会ももうけたいと考えています。私個人としても診療科の枠をこえた立場で、直に近隣医療機関の皆様のご意見を聞けるようにいたします。外来予約のスピーディーな対応、診療情報の迅速な返答など様々な事に関し、忌憚のないご意見をいただきたく存じます。

今後とも、ご支援・ご援助のほどをよろしくお願い申し上げます。

独立行政法人 国立病院機構

大阪医療センター統括診療部長 三田 英治

第53回 おおさか健康セミナー報告

整形外科科長 上田 孝文

平成28年1月23日（土）、当院緊急災害医療棟・講堂におきまして、「日常よく見られる運動器の病気～その病態と診断・治療」をメインテーマとして第53回おおさか健康セミナーが開催されましたので、その概況を報告させていただきます。

整形外科が主に扱う運動器疾患は身体のいろいろな部位の痛みとして発症し、高齢化とともに頻度が高くなるのが特徴です。今回のセミナーでは、その中でも日常よく見られる「くび・肩の痛み」、「腰痛・下肢のしびれ」、「股関節の痛み」、「ひざ関節の痛み」に分けて、当院整形外科の脊椎外科グループチーフである青野博之医師、股関節外科グループチーフの三木秀宣医長、膝関節外科グループチーフの宮本隆司医長の代理として科長による、各病態・治療に関する講演が行われました。また講演の間に、「ロコモティブシンドロームって何？」と題して、整形外科・東6病棟の角野郁子師長による講演、およびその予防的治療法として日本整形外科学会から提唱されているロコモ体操

につき、聴衆の方々も一緒になって、当院師長らによる実演が行われました。ロコモティブシンドローム（運動器症候群）とは、高齢化に伴う変形性膝関節症、腰部脊柱管狭窄症、骨粗鬆症などが原因となり、骨・関節・筋肉など運動器の働きが衰えることにより、腰背部痛や膝関節痛などで歩行が困難となったり、日常生活での自立度が低下し要介護になったりする状態の総称を指す言葉です。これらの病態をできるだけ引き起こさないよう予防していくことにより、単に長寿というだけでなく、健康寿命を延ばすことができるのではないかと期待されています。

2時間半に及ぶセミナーでしたが、今回は院内より12名、院外より193名の計205名もの多くの参加者があり、盛況のうちに終了することができました。この場を借りて、ご多忙にもかかわらず講演をいただいた先生方や師長さん方、ならびに本セミナーにご参加いただいた皆様方に感謝申し上げます。



副看護師長会 職場環境活性化ワーキング

西7病棟 副看護師長 元木 千恵

副師長会ワーキングの職場環境の活性化グループでは、職場内の活性化やスタッフのモチベーション向上に努めるための働きかけを企画しました。

その中のひとつとして、レクリエーションでは、この活動を通して、スタッフ間の交流を深め、職場内の良好なコミュニケーションへつなげることができることを目標に企画しました。

各病棟、より楽しくできるようにレクリエーション内容や日程調整になどすごく迷ったりと思います。たこ焼きパーティーをしたり、近場の体験旅行や淀川バーベキューなどをされていました。レクリエーションに参加したことでスタッフは、

お互いの知らない一面が見えたり、思いもよらない特技を披露できた人もいたようです。今後もさらに職場環境が良好となるように副看護師長を中心に活気づけられるようにしていきたいと思います。

部門別ナースでは、6部門にわけ、各病棟でスタッフ投票をして頂きました。新人スタッフから病棟看護師長さんまで、経験年数に関係なく様々な方が選ばれました。

1病棟内で2冠達成したスタッフも多く、また3冠達成は1名いらっしゃいました。表彰に関しては2月末のこの花看護研究会にて表彰しました。



◆ 部門別ナース ◆

<p>挨拶NO.1ナース!</p>  <p>患者さんにもスタッフにも素敵な挨拶ができるナース!</p>	<p>太陽のような笑顔NO.1ナース!</p>  <p>患者さんにもスタッフにもいつも笑顔を絶やさず、あなたがいれば周りが明るくなります!</p>	<p>採血・点滴NO.1ナース!</p>  <p>難しい採血・点滴もこの人に依頼すれば大丈夫!</p>	<p>投票期間 11/2 ~ 11/16</p> <p>忘れずに投票しましょう</p>
<p>大和撫子ナース!</p>  <p>気配りができ、言葉遣い・動作も丁寧。まるで大和撫子!</p>	<p>聴き上手NO.1ナース!</p>  <p>患者さんやスタッフの話をいつも書き添って一生懸命に聞いてくれる。あなたに話を聞いてもらうだけでホッとします!</p>	<p>整理・整頓テキパキナース!</p>  <p>あなたがいれば病棟はピカピカ! 整理整頓は事故・感染予防にも繋がります。仕事もテキパキ!</p>	<p>投票ポスター掲示板</p> <p>副看護師長会 職場環境活性化ワーキング</p> <p>注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ○投票前に周りをよくく観てみましょう ○投票は自分の意思で行いましょう

★前年度から我隊に与えられた課題★

ビタミンナース選出は各病棟1名のみ
の選出であり、対象が看護師のみであった。

職場内でのコミュニケーションが希薄に
ないがちである。

新人の離職率6.2%(6/97名)
メンタルヘルスに影響を及ぼす状態に
なってから、相談し結果として長期休暇
や退職につながるケースが多かった。



◆ 部門別ナース ◆



みんなに選んで
もらえて嬉しかった

これからも頑張ろうと
やる気がでた



第37回 法円坂地域医療フォーラム報告

大阪医療センター地域医療連携室 橋川 一雄

平成28年2月20日に第37回法円坂地域医療フォーラムが当院講堂で行われました。腎臓内科と泌尿器科が担当で、テーマは「血尿を来す疾患について」でした。

統括診療部長の和田晃先生の開会の挨拶で始まり、第1部は教育講演で、「血尿を泌尿器科医はどのように診るか」のタイトルで泌尿器科医長の原田泰規先生の話でした。無症候性血尿患者の数%に尿路系の上皮がんが見つかり、70%の患者では血尿のみが主訴である。ガイドラインでは、まず尿細胞診とエコー検査を行い、必要に応じてCTや膀胱鏡を行うことになっている。膀胱鏡は決め手となる検査であり、現在では軟性鏡が主流となり以前の硬性鏡に比べるとずっと楽になった。また、マルチスライスのCTによって逆行性腎盂造影検査はほとんど行われなくなった。このような説明とともに、膀胱鏡検査の実際や膀胱がんの手術のビデオをわかりやすく解説されました。最後に、肉眼的血尿では泌尿器科的疾患が多く、悪性腫瘍を初めとする重大な疾患が隠れている場合が多いため、ぜひ泌尿器科に紹介していただくよう

第37回 法円坂 地域医療フォーラム

テーマ：「**血尿を来す疾患について**」中絶料 無料

日時：平成28年2月20日(土) 15:00~17:30
会場：国立病院機構 大阪医療センター 緊急災害医療棟 講堂(3階)

【司会】 国立病院機構大阪医療センター 地域医療連携推進部長 橋川 一雄

第1部 教育講演
【座長】 国立病院機構大阪医療センター 腎臓内科 科長 岩谷 博次
血尿を泌尿器科医はどのように診るか
国立病院機構大阪医療センター 泌尿器科 医長 原田 泰規

第2部 教育講演
【座長】 国立病院機構大阪医療センター 泌尿器科 科長 西村 健作
血尿を腎臓内科医はどのように診るか
国立病院機構大阪医療センター 腎臓内科 科長 岩谷 博次

第3部 患者会からのご意見
【座長】 国立病院機構大阪医療センター 腎臓内科 科長 岩谷 博次
多発性嚢胞腎(PKD)患者・家族の現状
PKD財団日本支部 櫻内 栄子

閉会の挨拶
国立病院機構大阪医療センター 地域医療連携推進部長 橋川 一雄

主催：「法円坂 地域医療フォーラム」運営協議会

にこの依頼で話を締めくくられました。

第2部は腎臓内科科長の岩谷博次先生の教育講演で、タイトルは「血尿を腎臓内科医はどのように診るか」でした。血尿を来す内科代表的疾患としてIgA腎症がある。近年IgA腎臓の治療として扁桃摘ステロイドパルス療法が行われるようになった。ところが扁桃摘早期に血尿が悪化する症例がありCD16+CD56ダブル陽性細胞が末梢血に増えることが分かった。これをきっかけに行った岩谷



先生の研究ではIgA腎症ではCD16+CD56ダブル陽性細胞、流血中の糖鎖不全IgAが関与し、糸球体血管内皮の障害を来す一種の血管炎であると考えるようになったそうです。また、摘出された扁桃腺の網羅的に菌種を調べたところキャンピロバクターやトリポネーマがあった方が摘出後直りやすいことがわかった。この結果から、IgA腎症の炎症として歯周病などの感染症が関与していることが考えられ、歯周病を含む感染症の治療が有効なこともあるとのことであった。次にPKDの話があった。腎臓内科では常染色体優性遺伝のADPKDを対象としている。PKDでは、腎機能低下、腹部圧迫症状、嚢胞内出血による痛み、感染による発熱など多彩な症状があり、また脳動脈瘤が生命予後を考える上で重要である。これまでは対症療法のみであったが、最近圧迫症状を改善する薬であるサムスカが使えるようになった。PKDの治療も新しい段階に入ったと考えられるとの内容でした。

第3部は患者会からのご意見として、多発性嚢

胞腎（PKD）財団日本支部の事務局代表である程内（ほどうち）栄子様から、まずPKD財団の活動についての講演がありました。PKD財団の本部はアメリカにあり、活動として専門医による勉強会、医師による相談会、機関誌の発行やホームページ運営を行っているそうです。PKD患者は腎機能低下や腹部圧迫症状などの症状ばかりでなく、うつ症状、妊娠出産の問題、遺伝疾患であるため職場や家族、とくに子どもにどう伝えるか、などの大きな問題を抱えている。また、血尿に慣れてしまっているため、がんの早期発見の機会を失った例が紹介された。その中で2014年から使えるようになったサムスカは患者によって大きな進歩であった。また、翌年には難病法の改正があり、医療費助成の対象となった。このような進展があったがまだまだ課題も多く専門医への協力を依頼されて話が閉じられた。この程内氏からの講演で会は終了した。近隣医療機関の先生から治療についての質問もあり、参加人数は134名と盛況で盛りだくさんな会となりました。



以前、「介護保険は申請と意見書が命です！」をテーマに、介護保険の主治医意見書は依頼が来たら ①内容に不備がないように、②できるだけ早急に記載をお願いします、と情報発信させていただきました。そこで、今回は介護保険シリーズ第3弾（勝手にシリーズ化しちゃいましたが…）として、「介護保険は認定調査書と意見書が重要です！」をテーマに、お話ししたいと思います。

■新人MSW「トホホさん」と
新人Ns「アレレさん」の奮闘記
～介護保険のあれこれ、一緒に学びませんか～

その1 「介護保険は認定調査書と意見書が
重要です！」

とある日、何やら神妙な面持ちの新人MSWトホホさん…

新人MSWトホホさん：「Aさんの介護度、要支援のままなんですよ～。」

新人Ns.アレレさん：「えっ？区分変更申請したのに、そんなことってあるの？」

トホホさん：「う～ん…。」

アレレさん：「ベッドのレンタルできなくなっちゃうのかしら？」

トホホさん：「う～ん、その辺りを意見書にきっちり書いてもらえば、要介護にはなると思ってたんだけど…。確かに、歩行できて一見ADL自立だけど、点滴や腎瘻があるからベッドや訪問看護が必要だし、要支援ではとても足りないのに…。」

そこに先輩MSWが登場です。

トホホさん：「あっ、先輩。さっきAさんのケアマネさんから連絡があったんですけど、介護度UPしないらしいですよ～。」

先輩MSW：「あら、それは困ったわねえ。何か意見書に不備があったんじゃない？」

トホホさん：「…（先輩、めっちゃ冷静じゃないですかあ）。」

先輩MSW：「意見書の写しみてみたら？ サービス使えないと退院してから厳しいわね。」

トホホさん：「そ、そうですね。確認してみます。」

トホホさん：「そういえば…先輩や地域連携の師長さんも言ってたんだけど、意見書の内に抜けが

あったりすると、認定審査で却下になったりするらしいよ。」

アレレさん：「へえ～。そうなんだあ～。ちゃんと書いてもらわないといけないんだね。」

アレレさん：「病棟で介護認定調査のために調査員さんがくることがあるんだけど、その時もちゃんと立ち会って、入院中の患者さんの様子（日頃の状態）を伝えた方がいいわね。」

トホホ：「そうしてもらえると、患者さんや家族さんにとっても助かるんだけどね。」

Aさんの主治医意見書のカルテ控えをみってみると…な、なんと…日常生活動作は“自立”にチェックしてあり、特記事項は空欄になっています。

これでは介護度はあがりません。Aさんにとって在宅生活を送る上で、必要な（レンタルベッドや訪問介護などの）サービスが使えません。

このままでは自宅での生活は難しくなってしまいます。

地域医療連携室の師長さんの話によると…

認定調査や主治医意見書の内容不備により、判断の根拠が不明確であったため区分変更却下となるケースもあるそうです。

また、逆に、主治医意見書の各項目チェックと特記事項が詳細に記載されており、判断の根拠が明確であったこと、また認定調査員が行う認定調査においても特記事項に観察ポイントや状況が明確に記載されていたことから、二次判定で非該当→要支援へ介護度が見直されたケースもあるそうです。

結局、今回のケースでは、トホホさんより主治医の先生に事情を説明して…再度、区分変更申請を行うこととなります。



大阪医療センターの 講演会・セミナーなど

大阪医療センターでは、地域とのつながりを深めるべく、医師・医療者対象、市民対象の講演会やセミナー定期的に企画・開催しています。

第38回 法円坂 地域医療フォーラム

テーマ：「がん治療とがんの疼痛管理」

日時：平成28年6月11日(土) 15:00~17:30
場所：シティプラザ大阪 2F『旬』

【司会】 国立病院機構大阪医療センター 地域医療連携推進部長 橋川 一雄

1. 開会挨拶 国立病院機構大阪医療センター 統括診療部長 三田 英治

2. 講演
第一部 一般講演
【座長】 国立病院機構大阪医療センター 下部消化管外科 科長 池田 正孝
「当院におけるがん薬物療法」
国立病院機構大阪医療センター 外来化学療法室 がん化学療法看護認定看護師 馬場 奈央

「低侵襲手術
～開腹とメスで切る時代から、腹腔鏡と抗癌剤で切る時代へ～」
国立病院機構大阪医療センター 下部消化管外科 医師 植村 守

第二部 特別講演
【座長】 大阪市城東区医師会 会長 有賀 秀治
「緩和ケア～最近の話題～」
緩和医療科 科長 里見絵理子

3. 閉会挨拶 国立病院機構大阪医療センター 院長 是恒 之宏

共催：国立病院機構大阪医療センター・
今回は地域医療フォーラム終了後の意見交換会は予定しておりませんが、フォーラムの運営

第54回 おおさか健康セミナー

講演 メインテーマ
造血と貧血
および
感染症について

日時 平成28年4月23日(土) 14:00~16:30
会場 国立病院機構 大阪医療センター 緊急災害医療棟3階 講堂

総合司会 国立病院機構 大阪医療センター 感染症内科 科長 上平 朝子

講演内容

- 1 造血とは
国立病院機構 大阪医療センター 輸血療法部長 井上 信正
- 2 貧血の話
国立病院機構 大阪医療センター 血液内科 科長 池田 弘和
- 3 感染対策の基本～手洗い～
国立病院機構 大阪医療センター 感染症内科 科長 上平 朝子
- 4 結核のはなし
国立病院機構 大阪医療センター 感染症内科 医師 笠井 大介

▶ 質問に対する回答
※なお時間の関係上、全ての質問にお答え出来ない場合がございますのでご了承ください。

▶ 次回開催予定 平成28年7月16日(土)〈眼科〉

お問い合わせ 国立病院機構 大阪医療センター 地域医療連携室 久米
TEL 06-6942-1331(代)

2016年度 第1回 オンコロジー・がんサポートチーム合同セミナー

テーマ：インシデントから学ぶ がん医療におけるリスクマネジメント

日時：平成28年5月18日(水)18:00~19:00
場所：災害医療棟 3階 講堂
対象：がん治療に携わる医療者の方

司会：がん薬物療法委員会委員長 臨床腫瘍科科長 久田原 郁夫

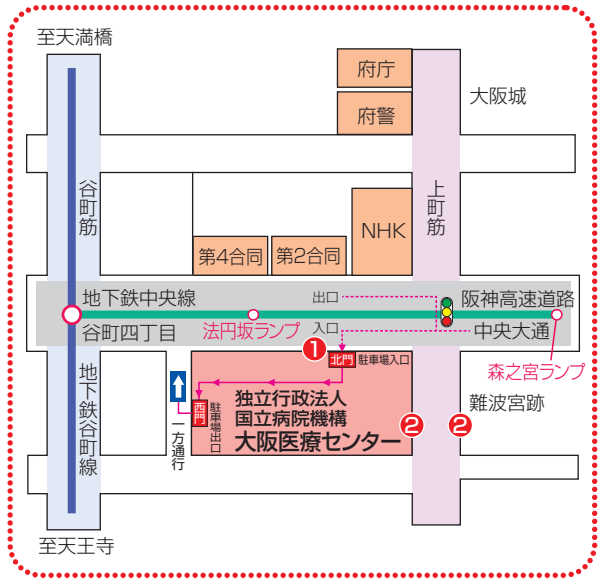
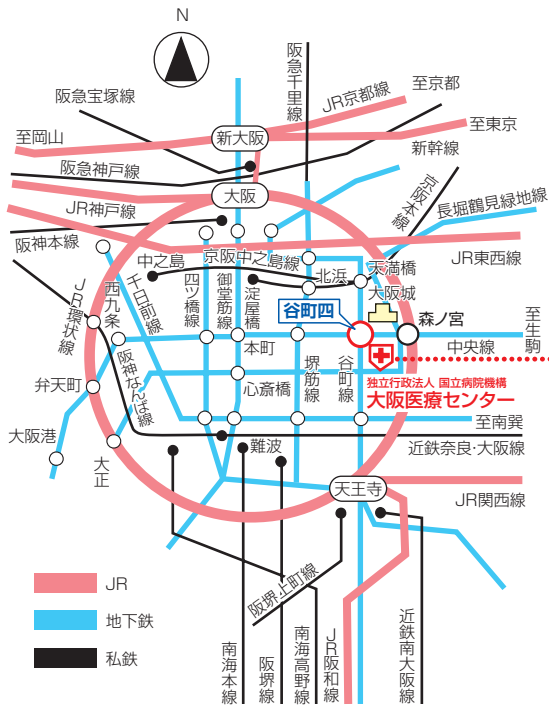
講演：

1. 当院におけるがん治療リスク管理の概要
臨床腫瘍科科長 久田原 郁夫
2. がん治療関連のインシデントについて
医療安全管理係長 角野 郁子 (医療安全管理部)
3. がんサポートチームからみた 麻薬のリスクマネジメント
がん性疼痛看護認定看護師 上田 純子 (がんサポートチーム)
4. がん化学療法におけるリスクマネジメント
がん化学療法看護認定看護師 馬場 奈央 (外来化学療法室)

共催 がん薬物療法委員会・がんサポートチーム・外来化学療法室・職員研修部



交通のご案内



① 地下鉄「谷町4丁目」11番出口 ② 市バス「国立病院大阪医療センター」

■地下鉄

谷町線・中央線「谷町4丁目」駅下車 ①番出口すぐ

■J R

大阪環状線「森ノ宮」駅下車、地下鉄中央線乗り換え「谷町4丁目」駅下車 ①番出口すぐ

■バス

市バス「国立病院大阪医療センター」下車

■マイカー・タクシー

- ・ 阪神高速 13号 東西線
- ▼環状線経由の場合
 - 「法円坂」出口 上町筋を右折転回し、左折すぐ
- ▼東大阪方面からの場合
 - 「森ノ宮」出口 中央大通り直進、上町筋と中央大通りの交差点を直進し、左折すぐ
- ・ 現在新病院建設工事の為、中央大通り沿いの入口(北側)をお願いしております。
- ・ また、敷地内は一方通行になっており、出口については西側となっております。
- ご協力よろしくお願いたします。